

御幸病院広報誌

みゆきの里通信

特集 | 御幸病院 新年度医局体制紹介

2019 SPRING

vol.38



地域の皆様の健康と安心のために
医療体制をさらに充実

人が人をおもう。
人が人をつつむ。



みゆきの里

専門性の高い医療・福祉サービスに向け新体制に

医療法人博光会 理事長 / みゆきの里 会長

富島 三貴

すっかり暖かくなり、さわやかな風が吹き渡る季節となりました。

平成の時代が終わり、新しい時代・令和の始まりとともに、みゆきの里においてもこれまで進めてきた変革をさらに進めるために、新しい体制でのスタートを切りました。これまでの取り組みとして、一昨年4月には、心不全の領域で高度急性期病院と施設や在宅を繋ぐ橋渡しの存在として全国のモデルにしたい、という想いを実現すべく、LTAC心不全センターを開設いたしました。従来の慢性期中心の医療から亜急性期から回復期、さらに在宅までを担える病院への変革を目指し、昨年には、副院長に脳神経外科の木村浩医師をはじめ、腎臓内科、整形リハビリテーション科の医師を招聘しました。さらに今年度には、緩和ケア、循環器科の専門医師が着任いたしました。このようにLTAC心不全センターをはじめ回復期、緩和ケア、在宅とそれぞれの分野に

専門性の高い医療体制を構築するなど、医療の質と各施設・在宅のケアの向上に取り組んでいます。

もちろん、私たちの強みでもある多職種による高い専門性と福祉・介護のバックグラウンドを生かしたチーム医療・介護についてはこれまで同様、総合的に展開してまいります。特にリハビリテーション分野ではスタッフ総数100人を擁し、県下でもトップクラスの体制を整えています。また昨年は、みゆき天明クリニックを開設、リハビリテーションのより一層の充実を図り、創業の理念である「福祉の原点は在宅にあり」を具現化する熊本市南西部における拠点に位置付けています。

私たちが創業以来目指しているのは「健康長寿のまちづくり」です。保健・医療・福祉を有機的に連携させた健康づくりの取り組みを融合させ、地域の皆様の命と健康を支えられるよう精一杯務めてまいります。



気持ちも新たに、 安心の医療をご提供

御幸病院 院長 / LTAC心不全センター長

西上 和宏

当院では、これまでにLTAC(long-term acute care)心不全センターを開設し長期にわたって多職種による専門的ケアが必要となる心不全患者さんの受け入れに力を注いできました。

また一般病床、地域包括ケア病棟、回復期リハビリテーション病棟、医療療養病棟、緩和ケア病棟の連携、あるいは訪問看護や訪問介護、ケアマネジメントの事業所を一か所に集約した『みゆきの里在宅総合支援センター』の設置など、地域の皆さんに安

心の医療をご提供するためのさまざまな取り組みを進めて参りました。

そして、新年度より新しいスタッフも加わり、診療体制を刷新いたしました。急性期病院とかかりつけ医、自宅や他の施設をつなぐハブ施設の役割をはたすべく努力して参ります。

地域の皆様の健康と安心に貢献できるよう、御幸病院スタッフ一同頑張る所存ですので今後ともよろしく願い申し上げます。

急性期病院とクリニック、在宅との橋渡しにより、 地域包括ケアシステムの中心的役割を果たす

医療ニーズの変化に 対応した体制づくり

これまで、療養型病院としての立ち位置にあった御幸病院ですが、急性期病院の入院日数短縮化の流れの中で、その使命は大きく変わろうとしています。急性期病院に入院した方が短期間の入院を経て退院する場合、その後、自宅や施設でいかに継続的にスムーズな医療を受けられるかが大きな課題となっています。御幸病院は、このような社会のニーズを受け、急性期病院とかかりつけ医、または自宅や他の施設への橋渡しを担うハブ的な役割を果たすべく、努力しております。終末期心不全に対応するLTACセンターも、そのような発想から生まれたものですが、それが病院全体の役割になったといえるでしょう。

専門性の向上により、 幅広い医療ニーズに応える

この度、豊かな専門知識を備えた医師を数多く迎えることができたことで、地域のハブ病院として、より多様な医療ニーズに応えられる医局体制となりました。

脳神経の知見が必要とされる回復期リハビリテーション病棟では、脳神経の専門医である木村副院長が大きな役割を果たします。緩和ケアにおいては、人吉総合病院の緩和ケア部長という指導的立場にあった倉本医師と、ひまわり在宅クリニックで訪問診療の経験を積んだ岡村医師の二人体制が確立しました。ケアの充実により、クリニックとも連携しながら、病棟と自宅をつないだ終末期のシームレスな緩和ケアが可能になるものと考えております。また、LTACセン

ターは、循環器内科専門医の川本副センター長の着任によって、医師二人体制となりました。マンパワーが向上し、緊急の心不全入院にも対応できます。

さらに消化器内視鏡の専門医である倉本医師の着任により、人間ドックや定期健診も再開されます。昨年10月より整形外科専門医の井医師が加わり、回復期リハビリテーションが充実しました。当院では、在宅サービスの活用も視野に入れながら、退院後の生活までフォローできる万全の体制を目指してまいります。





木村 浩 副院長

熊本大学付属病院脳神経外科等で、長年、脳卒中の専門医として診療に携わってきました。これまで培った急性期病院との太いパイプを生かし、脳卒中後のリハビリ体制の充実を図っていきます。在宅医療を念頭に置き、かかりつけ医とも緊密に連携しながら、いかに成果を上げられるかが鍵となるでしょう。高血圧の方への予防的見地からの生活指導、家族との対話も大切です。その上で、在宅によるADL低下を防ぐ外来リハ、訪問リハの活用、みゆき園、ぼたん園への通所、また、状態が悪化した場合の御幸病院への受け入れと、トータルなアプローチができるみゆきの里の強みを最大限に生かしたいと思っています。



倉本 正文 統括運営部長 兼 緩和ケア診療部長

御幸病院の緩和ケア病棟は、終末期に特化したケアを目的としたホスピスの走りでした。しかし、いったん入院したら必ず院内で終末を迎える…という従来の形から脱却するのはなかなか難しく、もっと自由度の高い緩和ケアのあり方が求められていました。今回、岡村先生と二人体制になったことで、よりきめ細かい個々のニーズに沿い、必要に応じて施設や自宅と自由に行き来しながら緩和ケアを受けられる状態を目指せるようになりました。「最後は住み慣れた自宅で」という希望を叶えるため、医療と福祉両方の社会資源をフル活用しながら、終末期に立ち足るハードルを一つ一つ越えていければと考えています。



川本 理一郎 LTAC心不全センター 副センター長

“足は第二の心臓”と言われるように、足を鍛えることで心臓の機能も高まることがわかっています。循環器内科医が常駐できるようになったことで、LTACでの心臓リハビリが確立され、予後を改善して退院に臨める方が増えることを期待しています。みゆきの里では「継続性」が一つのキーワード。退院後も在宅診療によって継続的にフォローし、心不全の緩和ケアを通して看取りにも関わることができればベストです。家族の協力のもと、医師や看護師が24時間体制で見守れるシステムづくりが理想。症状を自覚しにくく死の危険と隣り合わせの心不全にあっては、患者と向き合い、今をより良く生きるためのサポートも大切です。



川野 眞一 リハビリテーション科 部長

回復期リハビリテーション病棟は、医師、看護師をはじめ薬剤師、栄養士、ソーシャルワーカーなど、多職種によるチーム医療で成り立っています。脳血管疾患では150日間、整形外科では90日間という限られた入院期間の中、チームで情報を共有し、先の状態を予測した安全確実なリハビリの目標を設定。自宅や施設へのスムーズな移行に努め、退院後も、障害の程度に応じて、あらゆるサービスを駆使して生活を支援します。緩和ケアの経験豊かな医師が加わったことで、今後は、在宅での看取りのニーズも出てくるでしょう。リハビリによって生きがい高め、再発に備えて救急病院との連携にも努めていきたいと思っています。



細川 貴規 腎臓内科 部長

腎臓内科医の立場から、腎臓の寿命を身体の寿命(天寿)に近づけ、長時間の拘束や疲労感などの苦痛が伴う人工透析を、できるだけ回避できるよう目指しています。そのためには、早期発見と適切な薬剤投与のほか、脱水予防と血圧管理が必要となります。また、食事や運動など生活習慣の見直しも大切で、糖尿病教育による啓もうにも力を入れています。とりわけ重要な食生活の改善には栄養士との連携が欠かせません。個々の食事の傾向を把握し家族内で孤立させないよう、家族構成や生活環境まで把握したオーダーメイドの改善方法を探りながら、一人一人を見守り励ます姿勢で診療に取り組んでいきます。



井 賢治 整形リハビリテーション科 部長

昨今の高齢化により、関節の痛みや骨折などの症例は増加の一途をたどっています。当院の整形リハビリテーション科は、急性腰痛症などの緊急受け入れをはじめ、近隣の急性期病院からの術後患者様の受け入れや在宅のリハビリまで幅広い対応が可能です。急性期～回復期～維持期に対して総合的に貫きたりハビリテーションを提供しています。基礎疾患を持つ患者様も多いため、循環器科、消化器科、腎臓内科などの専門医と連携して全身状態を十分把握し、安全にリハビリ治療をおこなえるよう努めています。「なぜリハビリテーションが必要なのか？」をご本人、ご家族と時間をかけて丁寧にじっくりと話し合うことで患者様の満足度が高いリハビリテーション治療を目指しています。



■ 本田 健一 消化器内科 部長

内視鏡の豊富な経験を持つ医師が4人揃い、毎日検査ができる体制が整ったことで、みゆきの里の取り組みの一環である予防センター的役割が復活し、早期発見早期対応が成果を上げつつあります。長年勤めた大学病院では消化器内科全般を網羅し、ジェネラリストの道歩んできました。要介護度の高い高齢者の増加が懸念される中、総合的に診れる医師の必要性は増すと予想されます。ジェネラリストの強みを生かし、訪問診療にも注力していきたいと思えます。医療福祉連携の先駆者であった御幸病院ですが、これからは、かかりつけ医と急性期病院をつなぐ役割にも目を向け、地域への貢献を目指していきます。



■ 岡村 茂樹 訪問診療センター長 兼 緩和ケア診療部 副部長

消化器外科医としてがん患者の診断から治療まで幅広い経験を積み、この度、学生時代からの念願であった緩和ケアに携わることになりました。以前に比べ、家庭での臨終と看取りを希望する声の高まりとともにサービスの拡充も図られてきましたが、まだ実例数は少なく、医療サイドの意識変革が必要となっています。在宅における緩和ケアでは、本人や家族の満足が得られやすい半面、安全性との両立という課題もあり、それを客観的に評価できるスタッフの育成も急務です。心安らかに穏やかな最期を目標に、当事者と家族に寄り添い、スタッフの幸福度も上げられる緩和ケアのあり方を追求したいと思えます。



■ 金場 俊二 リハビリテーション科 副部長

御幸病院には、私を含め2名のリハビリテーションの認定臨床医がおりました。そこに整形外科の井先生と脳神経外科の木村先生が加わったことで、さらに全体的な質と専門性の向上が図られることになりました。入院中にとどまらず、退院後も外来リハや訪問リハによってサポートするシステムがあります。在宅では、リハビリテーション部(訪問看護ステーション)のセラピストと密に情報交換することで一人ひとりの生活状況を視野に入れ、少しでも以前に近い状態に戻し、ADLを維持するリハビリが行われています。急性期病院退院後の受け入れ要請も増え、リハビリテーションの重要性は益々高まっていくと思えます。

みゆき天明クリニック / 院長 就任挨拶

この度、2019年4月1日付をもちましてみゆき天明クリニックの院長に就任いたしましたので、ここに謹んで御報告申し上げます。これまでに築き上げられた信頼関係の上に、今後は地域医療に少しでも貢献できますよう微力ながらも誠心誠意努力してまいりたいと存じます。何卒倍旧の御指導御鞭撻を賜りますよう伏してお願い申し上げます。

緒方 賢一郎



訪問診療、訪問リハのご案内

超高齢化社会と言われる時代になり医療や介護の在り方があらためて問われるようになりました。天明地区においても例外ではなく、外来においては比較的高い年齢層の患者さんに通院いただいております。これまで通いながれた医療機関にも身体の変化により行くことが困難となるケースがここ最近よく聞かれるようになりました。当クリニックでは訪問診療、訪問リハを行っております。慣れ親しんだスタッフにより診療やリハビリを安心して受けていただきながらより充実した生活が送れるようお手伝いさせていただきますことができると思っています。「あってほしい、必要だ」と言われるクリニックであるためにも垣根なくかかわっていければと思います。訪問診療、訪問リハでお悩みの際にはなにかしらのお手伝いができると思えますのでぜひご相談ください。

在宅総合支援センターからのご案内

居宅介護支援事業所と訪問介護事業所、訪問看護ステーションの連携により、一人ひとりの医療・介護ニーズに、きめ細かくスピーディーに対応します。

居宅介護支援事業所

在宅生活サポートの総合相談窓口です。ケアマネージャーが利用者の現状を詳細に把握し、医療サービスまたは介護サービスの適用に応じた保険申請や、訪問看護・ヘルパー利用をはじめとしたサービスの手配、施設紹介などを行います。職歴も豊かなケアマネージャー男女合わせて9名が常駐し、個別のニーズに沿った細やかなケアプランを作成。サービスの利用状況把握など、継続的なフォローにも定評があります。

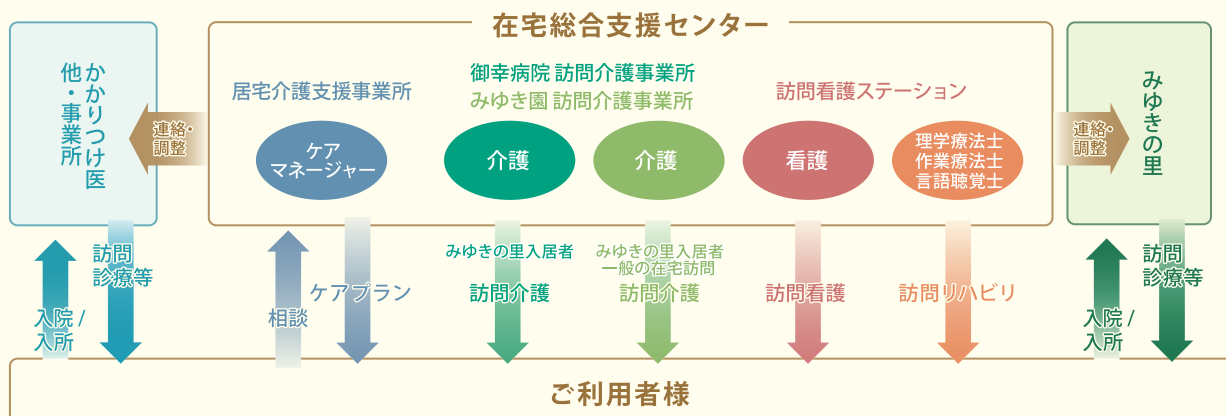
みゆき園 訪問介護事業所

御幸病院 訪問介護事業所

みゆき園 訪問介護事業所は13名のヘルパーを擁し、ケアマネージャーのプランに沿って介護サービスを行っています。御幸病院 訪問介護事業所が、介護保険の対象となるみゆきの里の入居者にサービスを提供しているのに対し、70%が一般の在宅訪問、30%がみゆきの里内の入居者訪問を行っており、障がい者も対象としています。25年以上の歴史を誇る事業所のモットーは、他の部門との連携の良さ。タイムリーにケアマネージャーにフィードバックでき、訪問看護のサポートも得られる環境により、常にサービスの向上を図っています。

訪問看護ステーション

住み慣れた地域で安心して自分らしく過ごしていただくために看護師・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士がご自宅を訪問して療養生活をサポートします。4つの職種が互いの専門的知識・技術を磨き連携を図ることで、質の高いケアを提供しています。また24時間、365日いつでも対応できる体制を整え、医療ニーズが高い方、ターミナルケア、小児の在宅医療もお手伝いさせていただきます。かかりつけ医・ケアマネージャーなど他機関ともきめ細やかな連携を図り、お一人ひとりが満足していただける温かな看護を提供します。



施設長就任挨拶

社会福祉法人会 健成会



特別養護老人ホーム みゆき園・地域密着型特別養護老人ホーム みゆき東館施設長 松岡洋助

この度、平成31年4月1日付けで「社会福祉法人健成会 みゆき園・みゆき東館」の施設長に就任いたしました松岡洋助です。超高齢化社会となり、施設内でも医療のニーズが高まり、医療と介護の連携が不可欠になっています。また、働き方改革が叫ばれる中、私どもの職場内にもICT化が少しずつですが進み、10年前とは介護の在り方も大きく変わってきたように思います。しかしながら私どもみゆきの里グループが変わらず育んできたのは人づくりです。施設や地域でお暮しになる高齢の方々やそのご家族に「みゆき園のサービスを利用して良かった」と思っていただけのように、引き続き、「感謝とご恩」を忘れずに職員一丸となって努力してまいりたいと思います。微力ではございますが、ご指導、ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

社会福祉法人会 健成会



軽費老人ホーム富貴苑・ケアハウスピオニーガーデン施設長 肱岡幹郎

軽費老人ホーム富貴苑、ケアハウスピオニーガーデンの施設長に就任いたしました肱岡です。平成12年に特別養護老人ホームみゆき園では事務課長として、また平成24年からはピオニーガーデンにて高齢者福祉の現場で勉強をさせていただき、多くの方々にご指導をいただきました。心から感謝申し上げます。

さて富貴苑とピオニーガーデンでは、高齢者の自立した日常生活を支援し、介護を必要としない期間を少しでも延ばすことを目的と地域の社会福祉の発展に取り組んできました。これまでの経験を基礎に超高齢者社会を安心して暮らせる施設運営と地域福祉の発展に少しでもお役に立つよう取り組んで参りますので、引き続き皆様方にはご指導ご鞭撻のほど宜しくお願いいたします。

医療法人 博光会



介護老人保健施設 ぼたん園施設長 橋口玲子

ぼたん園施設長を拝命致しました橋口玲子と申します。皆様には、日頃からご支援・ご協力を賜り、心より御礼申し上げます。みゆきの里富島博前会長の「地域住民の福祉活動を視野に入れた在宅福祉対策」の構想から発展した介護老人保健施設「ぼたん園」は、今年で創立25周年を迎えます。当施設は、超強化型介護老人保健施設として、アセスメント力と多職種によるチーム力を発揮して在宅支援強化モデルへシフトしており、医療ニーズが高いご利用者様や認知症、看取りを希望される方々にも的確に対応できますように、特に人財育成に力を入れております。新しい共創の時代を迎えようとしている中、在宅復帰・在宅支援のための地域拠点となる施設として、何よりもご利用者・ご家族のそれぞれの想いを大切に、お一人おひとりの笑顔が引き出せるように、邁進していく所存です。今後とも地域の皆様から選ばれる施設となれますよう品質保証と専門性の向上に努めてまいりますことをお約束いたします。今後とも皆様のご指導・ご鞭撻を賜りますように宜しくお願い申し上げます。

社会福祉法人会 健成会



ウェルネススクエア和楽施設長 飯田俊之

ウェルネススクエア和楽の施設長に就任しました飯田俊之です。2003年に開業しました当施設は、年間20万人の方にご利用いただいています。施設内には、天然温泉、自然食レストラン、トレーニング室のほか、各種教室や研修会等用の貸室もご用意、心身ともに健康であるための機能をワンストップで提供しています。また、当施設では、全人的健康づくりと地域づくりを担う人材の育成を目指した「みゆき Holistic Life プロモーション」講座をはじめ、皆様の健康づくりのための各種講座を開催しています。さらに2017年度からは、日常生活支援総合事業として「運動型通所サービス」も実施しており、要支援の認定を受けられた方の身体機能回復・向上のお手伝いにも取り組んでいます。

「和楽に来て元気になった！」のお声をお聞かせいただきたく、職員が一丸となって皆さまの健康づくりのサポートに努めています。多くの皆さまのご利用を心よりお待ちしております。

みゆきの里ニュース

▲ 平成31年度入社式

新年度を迎えた4月1日、平成31年度みゆきの里入社式を執り行いました。スーツに身を包み、初々しい様子で、すこやかホールを訪れた新入職員は、医療法人博光会29名、社会福祉法人健成会4名の計33名。今後のみゆきの里を担っていく期待の新人たちです。

式では、富島 三貴会長から新入職員ひとりひとりに辞令交付を行ったあと、新入職員代表から宣誓を行いました。

富島会長が訓辞を述べた後、各施設長や幹部職員からも「一緒に頑張っていきましょう」などと暖かいエールが送られました。



▲ 日本医療機能評価を受審しました 【認定期間 平成30年12月15日～令和5年12月14日】

御幸病院は平成30年11月に公益財団法人日本医療機能評価機構による書面審査及び訪問審査を受審し、平成31年3月1日付で審査体制区分「リハビリテーション病院」の認定証の交付を受けました。

この認定証は「地域に根ざし、安全・安心、信頼と納得の得られる医療サービスを提供すべく、日常的に努力している病院」として認められた認定病院の中で、特に「リハビリテーション医療を担う病院」として、患者様中心の医療の推進、良質な医療の実践、理念達成に向けた組織運営を行っているリハビリテーション病院に交付されるものです。

▲ 緩和ケア内科外来(予約制)を始めました 【予約専用ダイヤル 096-379-2858】

外来担当医のご案内		月	火	水	木	金		
● 長尾名誉院長 ● 西上院長 ● 木村副院長 ● 細川医師・本田医師・金場医師・川本医師・西医師 山口医師・根岸医師・針本医師・赤坂医師	外科(鍼灸漢方)・健康診断 循環器専門外来 脳神経外科・神経内科	第1診察室	午前	江頭		江頭		
			午後		細川	江頭		
● 馬場医師 ● 倉本医師 ● 岡村医師 ● 井 医師 ● 肥後医師 ● 和田山医師 ● 江頭医師(要予約)	内科を中心とした種々の診療 外科を含め種々の診療 消化器外科・内科 外科・内科・緩和ケア内科 整形リハビリテーション科・内科 循環器専門外来 整形外科	第2診察室	午前	針本	針本	根岸	山口	針本
			午後	川本	本田	西	倉本	金場
● 心療内科・アレルギー疾患		第3診察室	午前	西上	西上	西上	西上	肥後
			午後	岡村	木村	和田山	井	山口
● 鍼灸漢方		鍼灸診察室	午前	長尾			長尾	
			午後		長尾	16:30 受付まで	長尾	
● 心療内科・アレルギー疾患 受付時間：平日 午前 8:30～12:00 午後 12:30～17:00 診察時間：平日 午前 9:00～12:30 午後 13:30～17:30		第5診察室	午前	馬場	赤坂	馬場	針本	馬場
			午後					

令和元年5月1日現在



～医療の輪で、健康と命の尊厳を支えます～

医療法人博光会 御幸病院

- 【診療科目】 内科・消化器内科・循環器内科・呼吸器内科・腎臓内科・漢方内科・リハビリテーション科・整形リハビリテーション科・心療内科・神経内科・アレルギー疾患内・緩和ケア内科
- 【診療受付時間】 平日 午前 8時30分～午後 5時 ※ 但し急患は何時でも受け付けます。
- 【施設概要】 ● 一般病棟 30床 (LTAC4床、地域包括ケア病棟10床含む)
● 回復期リハビリテーション病棟 60床
● 医療療養病棟 47床 ● 地域包括ケア病棟 29床 ● 緩和ケア病棟 20床 計186床
● 訪問看護ステーション「みゆきの里」御幸病院訪問介護事業所

みゆきの里グループ

みゆきの里 総合相談支援センター
みゆきの里 在宅総合支援センター

医療法人 博光会

医療法人 博光会 御幸病院
介護老人保健施設 ぼたん園
サービス付高齢者向け住宅 サンシティハウス
医療法人 博光会 みゆき天明クリニック

社会福祉法人 健成会

軽費老人ホーム 富貴苑
ケアハウス ビオニーガーデン
ウェルネススクエア 和楽
特別養護老人ホーム みゆき園
地域密着型小規模
特別養護老人ホーム みゆき東館
小規模多機能ハウス ほがらか
グループホーム ほがらか

関連法人

株式会社 みゆきの里 健康ファーム
株式会社 笑健



<http://miyukinosato.or.jp>